

私は、9月3日から12月24日までの約4か月間韓国のキョンヒ大学に留学した。最初は日本とは違う国での生活はとても不安で心配なことが多かったが、いざ生活してみると日本と変わらないことも多くとても生活しやすい国だなと感じた。私の一番の心配は食事だった。辛い物が苦手なので辛い食べ物しかなかったらどうしようと思っていたが、辛い食べ物もあるし、辛さを調節してくれるようなお店もあったので助かった。しかし、日本人が辛いと思っている食べ物にも辛い味付けがされていて困ったこともあった。そのおかげで日本にいるときより辛い物を食べることができるようになった。どんなものも辛くするのは韓国らしいと感じた。ほとんど自炊はせず買ってきたものを食べたり、外食をしていたため韓国の美味しい食べ物や日本では食べることがあまりない食べ物も食べることができた。

学校が終わったあとや土日にはたくさんの場所に行き、観光や買い物を楽しんだ。交通の便が良かったため、住んでいる場所から電車に乗れば行きたい場所には行くことができた。明洞にはよく買い物に行ったが友達とよく中国人に間違われて中国語で話しかけられることが多かった。以前は日本人が多くいる場所だったけれど今は中国人が多くいる印象だったので変わっていきていると感じた。韓服を着て景福宮に行ったことはとても良い思い出になった。とても寒い中行ったため、通行人のお兄さんに「なんで今韓服を着ているの？」と日本語で言われたが、素敵な写真をたくさん撮ることができた。

留学生活で1番の思い出はやはり学校生活だった。最初に行われた短期学期は3週間のコースで、同じ大学の子と他の大学の日本人の生徒ばかりのクラスだった。日本で習ったことの復習を主に行っていたためみんな楽しく授業することができた。正規学期では今まで行っていたものとは違いさまざまな国から来た人たちと一緒にクラスに勉強した。私のクラスはアジア人ばかりで特にマカオ、台湾、中国の子と仲良くなることができた。一緒に行った泊りがけでの現地学習でたくさん話をしたことがきっかけだった。友達ができたことで共通語が韓国語になるため、話をすることは語学力の向上につながった。

留学生活は今までにないことを体験、経験することができ、とても良い思い出になった。留学中にできた友達とは今でも連絡を取り続けていて良い関係を築けている。留学生活で、学んだことはたくさんあるのでこれからに活かしていきたいし今後も韓国語の勉強を頑張っていきたい。